

## ストレッチア

「ストレッチア」という植物が、南国の風をまとい遠くを見つめて咲いています。和名は「極楽鳥花(ごくらくちょうか)」、花言葉は「優雅(ゆうが)」だそうです。オレンジ色のトサカを立て鋭角のくちばしを前に出し、群れて大空を優雅に滑空している渡り鳥のようにも見えます。

実は、これ程までに鮮やかに咲いているのは、本校の用務主事(フラワーKAZUKO)さんが夏の暑い時期から、こまめに古くなった葉や茎などを剪定していたおかげです。毎年、この時期に咲くことを熟知しており、計画的に手入れをしてくださっていました。

学校は、ご存じのように教員だけが働いている職場ではありません。教員の他にも、前述の用務主事、事務職員、栄養士、学習支援員、特別支援教育支援員、スクールカウンセラー(SC)、巡回心理士、Assistant Language Teacher(ALT)、警備員、給食調理員など、学校(児童)のために多くの職種の人たちが、それぞれの役割を担っています。今年度の学校経営方針のキーワードとして「子供たちを真ん中においた教育」を掲げています。ストレッチアがきれいに咲いているのも、用務主事さんが子供たちの心が豊かに育つことを願って尽力してくださっている表れです。私たちがそれぞれの役割を果たす「子供たちのために」という共通の理由がそこにはあるのです。「島の宝」がこれからの未来に大きな花を咲かせることができるように、私たち大人も協力して教育活動を進めていく所存です。



場所は校長室から体育館へと移ります。そこでは、高学年の体育「体づくり運動」の学習でした。この日は、内地から教師道場の皆様が来校してくださり、道場の部員である6年担任(バレーボールNOBORU)の授業研究が行われました。東京都教職員研修センターより指導してくださる教授と指導主事の先生方、道場のリーダーの先生、そして、教師道場2年目の先生方がセスナ機ではるばる三宅島へ来てくださいました。ありがとうございました。

学習内容は、体の動きを高める運動に取り組むことでした。大きく分けると二つの運動です。「体の柔らかさを高めるための運動」と「巧みな動きを高めるための運動」です。

子供たちは、フラフープやボールなどを使って、体の各部位の可動範囲を広げる運動を考え、行います。また、考えたことを相手に伝えながら、場を工夫するなど関わり合いながら学んでいました。

教師側は、子供たちの自己調整に視点を当て、自ら学び方を選択したり、課題の再設定をしたりできるように手立てを講じることがポイントとなる授業でした。「どうしたらもっと体を柔らかくできるかな」「どうしたら体が柔らかくなったかな」など、課題解決に取り組んでいる場面で、教師が意図的に声を掛けていました。

ゴールデンエイジという言葉があるように、一般的には柔軟性や巧緻性は、6歳から12歳ごろの年齢の時期に高まると言われています。自分の体をイメージ通りに動かす経験を積み重ねると共に、楽しく、そして、自分や友達と調整しながら学ぶ姿が見られました。

加齢を華麗に止めたいと思う今日のこの頃。私も子供たちのように、「優雅」な身のこなしができるように、自分でも何かできることから始めようと思いました。

「そうだ! ストレッチや!!」